
キミと僕

Rie

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミと僕

【Nコード】

N0573BA

【作者名】

Rie

【あらすじ】

…僕は、生まれつき心臓が悪いんです。
そんな僕が、恋をしました。
優しく微笑むあなたは、僕の天使です…。

初恋

第一話 初恋

病室から見える景色は、病気の痛みも忘れてしまいそうなほど美しく、窓から漏れる光は、キラキラしていて、まぶしかった。そして、この空の下で僕は恋をしました。

一年前

病気が少し悪化してしまい、再入院することになって1ヶ月。中3になったばかりの僕は、病気が原因でうまく友達が作れず、ずっと独りぼっちだった。

…コンコン

「響くん。外出許可ができましたよ。」

「本当ですか!?!」

「うん。でも、今日と明日だけね。走ったりしないでって先生が。」

「はい!」

外出許可がでると必ず来る中庭。たくさんの木々やきれいな土。ここへくると、いつも落ち着く。

(本を読むには最高の場所だな…。)

すると、突然目の前が曇りだした。本が読みにくい…

「あの…すみません」

「はい…?」

ザワザワと木々が騒ぎ出す。

目の前にはどこかで見たことがあるような女の人。ふわふわした金髪ロングヘアーに、少し青の混じった瞳。

「（もしかして…）咲楽さん？」

「あッ知ってるんだ？」

「名前と顔だけ…」

”咲楽さん”とは、中1のときに同じクラスだった人で、優等生として有名だったのを知っている。でも、仲が良かったわけではないんだ。なにも咲楽さんのこと知らないし…。

「響くん…だよな？私のこと知っててくれたんだ！嬉しい」

それは、無邪気で…どこか暖かく、優しい笑顔。

そのとき、一目で咲楽さんのことが好きになりました。

咲楽さん。僕はあなたのことが好きです。そして、僕の初恋の人です。

中庭で

第二話 中庭で

木の下で本を読む僕と、隣には咲楽さん。なぜか、ずっと隣にいてくれる。

「難しそうな本だね。なに読んでんの？」

「えっと小説…？」

「へえ…」

会話終了。

(どうしよ…話しかけたほうがいいのかな) そう思っ、話題になるものを探していく。

「あ…学校はどんなカンジ？」

「えっと…普通に皆仲いいよ。」

「そっ…か。」

また会話終了。

(バカだ僕は…あれ？そういえば何で病院に…？ 聞いてみようかな…？)

「…あのッ！…」

咲楽さんと声がかさなる。こういつ時って、相手優先だよね？

「えっと…じゃあ、咲楽さんから…」

「いいよ、響くんから。」

「えっと、何で病院にいるのかとおもって。」

「ああ！そのことか。あのね、おじいちゃんに会いにいったんだ。」

「おじいさん…？」

「そ。知らない？咲楽浩三って言うんだけど…」

咲楽浩三。 たしかここの院長…だっけ？ ”おじいちゃん”って

ことは、咲楽さんは、院長の…

孫ってことか…

「えッ、じゃあ孫なんだ？」

「うん」

「なるほど。あ、咲楽さんは？」

「あ…えっと…」

気のせいだろうか？咲楽さんの顔が赤くなった気がする。

(咲楽さん顔赤い…？ 可愛い…)

「咲楽さん？」

「えっと、お願いがあるんだけど…」

「な、何？」

僕も咲楽さんも絶対顔赤くなってる。咲楽さんは、たぶん頼みづら

いから…？

僕は…ただ単に咲楽さんの赤くなった顔にドキッして…

「あのね、初対面なのに悪いんだけど…」

そのあと、咲楽さんの口から出た言葉は

私、好きな人がいるんだ。

だったんだ。

「そう…なんだ　　そ、それで？」

「協力してほしいんだ。　響くん、吉良くとすごく仲良かったで
しょ。それで…」

「吉良…？咲楽さん…小鷹のことが好きなんだ…？」

「うん…やっぱダメ…？」

ごめんなさい咲楽さん…ダメです。僕は、キミのことが好きなんだ。
僕の初恋の人なんです。いくら、相手が親友の小鷹でも。

でも、口を開いたときに出た言葉は、

いいよ。

って。何でだろうか、勝手に口が動いて…

「本当に！？ありがと！！」

…ドキン あの笑顔だ。 頬を赤くして無邪気に笑うその顔…。
そっか。僕は、キミのその笑顔が見たくて…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0573ba/>

キミと僕

2012年1月3日02時45分発行